

<金標準、円の独歩安観測から再度 8800 円超え・・・>



(出所：オアシス)

今週の消費者物価指数、FOMC、ECB 理事会、日銀金融政策決定会合とイベントを控える中で、豪州中銀やカナダ中銀のインフレ抑制を意識した金利引き上げが発表され、またヨルダン・スイス中銀総裁は「インフレは我々が物価安定と見なす基準を上回っている」と発言するなど利上げを示唆する発言を行い、皮肉にもドル安の動きに NY 金は 2000 ドルを試す値動きを見せている。特に FOMC では「金利休止観測」が市場には憶測が強まっているが、13 日の消費者物価指数が事前予想を上回るインフレを示す様であれば、「一時的な据え置き」へ思惑が変化し 7 月以降の利上げ再開に向けたドル高が強まる可能性も秘めている。

特に植田日銀総裁は先週末の国会答弁で金融政策運営については「粘り強く金融緩和を継続していくという姿勢だ」と述べるなど円安が進む環境下にある事から見ても、円建て金標準先物は再度 8800 円を試す値動きに注目した方が良いと思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル** が切り下げ続けているが、RCI では **短期** が切り下げの中で、**長期** は切り上げるなど基調が強気へ変化する予兆を見せている。特に日足が **10 日移動平均線** を維持しながら **40 日移動平均線** が切り上げており、高値追いに対する備えが必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,975,000 円(2023 年 6 月 12 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 40,700 円(2023 年 6 月 12 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>